

特集の下見を兼ねて小学4年生の娘と二人でバス旅行をすることに。普段はバス通学の娘も路線バスは初体験。「ピンポン」を押すタイミングが分からず、いくつも前のバス停から耳を澄まし、私の顔を何度も見ながら構えていたのに、結局は押せずじまいで「あ〜あ…」の連続。それでも女二人旅は楽しかったらしく、「夏休みの宿題にしたいけん、もう1回バスに乗って回りたい」と言ってくれました。親としても特集担当者としても嬉しい1日でした。(W)



元気な朝ごはんレシピ

豆腐サラダ



材料・4人分

- ホウレンソウ 1束(280g)
- トマト 大2個
- 豆腐 1丁
- ごま 小さじ2
- みそ 大さじ1/2
- マヨネーズ 大さじ3と1/2
- 砂糖 小さじ1

作り方

- ①ホウレンソウはゆでて2cmくらいの長さに切る。
- ②トマト、豆腐は大きめのサイコロ状に切る。豆腐は水切りしておく。
- ③ボウルにみそ、マヨネーズ、砂糖を混ぜ合わせる。
- ④③の中に①と②を入れ、和える。
- ⑤皿に盛り、ごまをふりかける。

1人分の栄養価=熱量190kcal、たんぱく質9.5g、脂質13.0g、塩分0.4g
ポイント=ちょっぴり白和えみたいなサラダです。お好みの野菜を加えてどうぞ。

考えていただいた人

= 泉頭幸恵(せんだう・さちえ)さん/平成19年度ヘルシークッキングコンテスト・一般部門アイデア賞

市政のうごき

朝長市長が6月定例市議会で最近の市政の動きなどについて、報告した内容を抜粋、要約してお知らせします。

企業立地の促進

3月議会で報告しました「新生電子(株) (自動車用電子部品の製造)の佐世保ニューテクノパークへの立地が正式に決定し、4月8日に立地協定を締結しました。

同社の佐世保工場は6月に着工し、来年3月には56名体制での操業が予定されています。2年後には約300人の地元雇用での本格操業を目指されていることから、地域の活性化への貢献度は非常に大きいものと期待しています。

ふるさと納税

4月末の地方税法の一部改正により、個人住民税の寄附金控除の拡充策として、「ふるさと納税制度」がスタートしました。

本市では寄附金の愛称を「キラっ都佐世保応援寄附金」とし、寄せられた寄附金は、本市固有の貴重な財産である「九十九島」と「亜熱帯動植物園」に関連する事業に充てることにしました(本紙9ページ参照)。

本年度は都市部における「在福佐世保人会」や「東京佐世保会」の会合などに合わせてPRし、地元を離れ遠くに暮らす本市出身者の方々に、「ふるさと佐世保」に対する思いを「寄附」という形でぜひとも具現化していただきたいと考えています。また本市の出身者に限らず、全国に佐世保市のファンを増やし、観光客や応援寄附金の増加につなげていきたいと思ひます。

公立学校優良施設表彰の受賞

地域の皆様のご理解をいただき、旧八幡小学校と旧保立小学校を統合して誕生した清水小学校の新社舎(昨年1月供用開始)が、本年度の「公立学校優良施設表彰」において「文部科学大臣奨励賞」を受賞しました。

この賞は、優れた特徴を持ち、特色ある優れた学校施設づくりに貢献できる施設を表彰するもので、今回は全国で3施設が受賞しました。

本市では子どもたちの豊かな心をはぐくみ、確かな学力の向上を図るため、従来からさまざまな取り組みを実施していますが、今回は施設整備の面が評価されたものと思ひます。今後とも、心豊かな佐世保っ子育成を目指し、学校施設の整備をはじめ教育環境の充実に努めていきます。



清水小学校の内部

※6月定例市議会の議案などは次号でお知らせします。

佐世保勢の活躍

3月20日、日本武道館で開催された「第30回全国高等学校柔道選手権大会」で、「西海学園高等学校女子柔道部」が団体戦で準優勝しました。さらにそのとき大将として活躍した「橋口ななみ選手」は、日本代表として5月17、18日にフランスのリヨンで開催された「フランスジュニア国際柔道大会」に出場し、3位というすばらしい成績を収めました。



橋口ななみさん

体操競技では、愛宕中学校の「ダンコ絵里香リン選手」が、5月5、6日に岡山県で開催された「NHK杯兼第29回オリンピック日本代表決定競技会」に出場し、「女子種目別跳馬」で最高得点をマークしました。



ダンコ絵理香リンさん

また、3月28日から30日まで静岡県で開催された「第1回春季全日本小学生女子ソフトボール大会」では、「佐世保ひまわりソフトボール部」が優勝の栄冠に輝きました。



佐世保ひまわりソフトボール部の選手たち

選手一人一人と、関係者の皆さんの絶え間ない努力がもたらしたすばらしい成果。本市スポーツ界だけでなく、市民の大きな誇りです。

長崎国体の会場の選定

平成26年に本県で開催予定の「第69回国民体育大会」。現在、県の準備委員会において競技会場の選定が順次なされており、これまでに本市が希望していた8競技のうち、バレーボール少年女子、自転車(トラック)、アーチェリー、軟式野球、空手道の5競技が会場地として選定されました(まだ選定されていない競技は、本年度中に選定予定)。

国内最大の総合的な体育・スポーツの祭典である国民体育大会。今後とも成功に向けて県と一体となって推進していきます。

歴史散歩



第516回

小峰城の石垣石(長畑町)

佐世保から川棚方面にバスで行き、長畑町の停留所に降り立つと、目の前に形の良い小山があります。ここが小峰山です。この南のふもとに割石積み(石積み)の見事な石垣を築いた家があります。「市長とは一字違いです」と笑って自己紹介する朝長盛男さん(七十五歳)の家です。

高さ七メートル、幅二十メートルにも及ぶ石垣の石は、自宅裏にあった小峰城の石垣石を転用したものです。割石積みとは、自然石の出っ張った部分だけを割り取って積んだものです。

盛男さんで十八代という朝長家は、大村藩時代、横瀬浦で水夫家の水夫頭を務めていました。朝長氏は、彼(盛男)の父、藤津、高来(高来)の三郡を治める朝廷の任を受け、正暦五(九九四)年に中央から下向した藤原直澄の直近の家臣の一人。直澄はその後、土地の名



を取って大村氏を名乗りました。小峰城は、ずっと時代が下がった戦国時代の文明七(一四七五)年、この地の地頭、宮村能登守通定が築いた城。本丸東西五十四間で「四方堅固の城なり」と大村藩「郷村記」に記されています。宮村氏は東国宇都宮氏の出で、間もなく部下の謀反によって滅びます。

盛男さんの話によると、石垣は父親の盛一さん(明治三十四年生まれ)が青年だった大正七(一九一八)年ごろ、男兄弟二人で標高百メートルほどの山頂城跡から担ぎ下ろし、遠縁の石垣石工、石田せき太郎さんが築き上げたそうです。九十年たった今でも、少しの弛みも無い見事な出来栄です。

朝長家の主屋は、明治三十八(一九〇五)年、わらぶきとして建てられ、その後瓦にふき替えました。庭のモミジ、柿の木も江戸時代に植えられたということ。筒井隆義

